

民 法 (100 点)

第1問

問1

Aは、狩野派の作品として家宝とされてきた日本画甲を、Bに1億円で売却する旨の契約を締結し、1億円の支払を受けるのと引換えに、甲をBに引き渡した。その後、甲を鑑定した結果、甲は狩野守信（以下「守信」という）の作品であることが判明した。

次の（1）及び（2）のそれぞれの場合において、Aは、Bに対し、甲を売却する旨の意思表示を取り消し、甲の返還を求めることができるか。できるとすれば、どのような事情がある場合か。なお、守信作の日本画は、狩野派の日本画の中では最も高額なものに属し、甲の時価は1億円を大きく上回るものとする。

（1）契約時に、AもBも、甲は狩野安信（以下「安信」という）の作品であると認識し、安信の作品である甲を売買しようと考えていた場合

（2）契約時に、Aは、甲が安信の作品であると認識し、安信の作品である甲を売却しようと考えていたのに対し、Bは、甲が狩野派のいずれかの作品であると認識し、この狩野派の作品である甲を購入しようと考えていた場合

問2

問1において、Aが、甲を売却する旨の意思表示を取り消すことができる場合において、次の（1）又は（2）の事実が生じたとする。このそれぞれの場合に、Aは、Cに対して、甲の返還を求めることができるか。できるとすれば、どのような事情がある場合か。

（1）Aが、Bに対し、甲を売却する旨の意思表示を取り消し、甲の返還を求めたが、それ以前に、すでに、Bが、甲をCに売却し、甲をCに引き渡していた場合

（2）Aが、Bに対し、甲を売却する旨の意思表示を取り消し、甲の返還を求め、Bが甲の返還に応じるというので安心していたところ、その半年後に、Bが、甲をCに売却し、甲をCに引き渡した場合

第2問

次の【事実】を読んで、後記の〔設問〕に答えなさい。解答に当たっては、後記の【事実】に現れていない特約並びに利息・遅延損害金・各種手数料は、考慮しなくてよい。

【事実】

Aは、大型バイク（甲）を所有している。Aは、甲を走行させているときに甲のエンジンのあたりから異常音が発生することに気づいた。Aは、バイクの修理を業とするBに対して、甲の修理及びメンテナンスを依頼し、これに対して50万円を支払うとの合意のもと、甲をBに引き渡した。その後、Bは、業務が立て込んできたため、Aに告げることなく、甲の修理及びメンテナンスを同業者Cに依頼し、これに対して40万円を支払うとの合意のもと、甲をCに引き渡した。

Cは、甲のエンジンをD社製の新しいエンジンに取り換え、メンテナンスも終え、試走をしたうえで、特段の異状を感じなかったことから、甲をBに引き渡した。Bは、Aに連絡を入れ、「依頼されていた修理及びメンテナンスを終えたので、甲を取りに来てほしい。その際に、50万円を持ってきてほしい」と述べた。これに対し、Aは、「今から甲を引取りに行きたいが、現金が手元にない。10日以内にBの指定する預金口座に50万円を振り込む方法で支払いたいが、それでもよいか」と応じた。Bは、これを了承し、振込口座をAに知らせた。

Bは、その日のうちに来店したAに対して、甲を引き渡した。ところが、その後2週間を経過しても、Aからの50万円の振込みはない。そうこうするうちに、Aが甲を運転して山道を走行中に転倒し、甲が破損した。

〔設問〕 Bは、Aに対して50万円の支払を請求した。Bの請求の当否について、事故原因が修理のミスにあったか否かに留意しつつ、予想されるAからの反論を踏まえて論じなさい。